

令和 3 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（概評）

【音楽（器楽）】

教科用図書北諸県採択地区協議会

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

（観点１） 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発行者	概 評
17 教育出版	<p>(1) 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、各楽器についての基礎的な知識や奏法で演奏する曲をまとめた「演奏の仕方を身に付けよう」と、身に付けた奏法の活用をねらった「合わせて演奏しよう」を設けるなどの構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>また、我が国の伝統音楽については、口唱歌（唱歌）を取り入れたり、「唱歌について」のページを設けたりするなど、実感を伴った学びになるような工夫が見られる。</p>
27 教育芸術社	<p>(1) 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、楽器の基礎的な知識や奏法で演奏する曲をまとめた「アンサンブルセミナー」と、身に付けた奏法の活用をねらった「アンサンブル」や「楽器でMelody」を設けるなどの構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>また、我が国の伝統音楽については、口唱歌（唱歌）を取り入れたり、「演奏者からのメッセージ」を掲載したりするなど、実感を伴った学びになるような工夫が見られる。</p>

2 内容や指導の充実

(観点2) 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発行者	概 評
17 教育出版	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、教材ごとに「学びのねらい」をスタート、「まとめの曲」をゴールに設定し、見開きで学習を見通せる構成になっており、主体的に学び合う活動が展開できるように工夫されている。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、身に付ける技能の模範となる演奏を試聴できる「まなびリンク」や、写真、イラスト、解説を掲載するなどの工夫が見られる。</p> <p>また、「Let's play!」「Let's Try!」の中から、学校や生徒の実態に応じて、曲を段階的に取り扱えるように配置されており、習得した知識・技能を活用することができるように工夫されている。</p> <p>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、吹く楽器と弾く楽器の学習の最後に「何が同じで、何が違う?」のページが設けてあり、共通性と固有性を考え、特徴を理解することができるように工夫されている。</p> <p>また、「話し合おう」では、考えたことや気付いたこと等をまとめ、協働的な活動が展開できるような工夫がされている。</p>
27 教育芸術社	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、「アンサンブルセミナー」では「学習目標」「活動文」「深めよう! 音楽」によって、見開きで学習を見通せる構成になっており、主体的に学び合う活動が展開できるように工夫されている。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、写真やイラスト、解説を掲載したり、様々な演奏や動画等を視聴できるQRコードを設けたりするなどの工夫が見られる。</p> <p>また、「アンサンブル」「楽器でMelody」の中から、学校や生徒の実態に応じて、曲を段階的に取り扱えるように配置されており、習得した知識・技能を活用することができるように工夫されている。</p> <p>(3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各楽器の学習の初めに、鑑賞曲を提示し、聴くことによって特徴を理解させるように工夫されている。</p> <p>また、「深めよう! 音楽」では生徒のキャラクターの吹き出しに、対話の例や考える視点等が示され、考えや気付いたこと等をまとめて協働的な活動が展開できるように工夫されている。</p>

3 利便性の向上

(観点3) 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発行者	概 評
17 教育出版	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、「各部の名称」「姿勢とかまえ方」などのコーナーがあり、基本的な知識や奏法について、鮮やかでダイナミックな写真やイラストを多く使うなど、主体的に知識・技能を身に付けることができるように工夫されている。
27 教育芸術社	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、「各部の名称」「姿勢と構え方」などのコーナーがあり、基本的な知識や奏法について、リコーダーの運指表のカラー掲載や替え指の紹介をするなど、主体的に知識・技能を身に付けることができるように工夫されている。

4 地域の願いや思い、生徒の実態等

(観点4) 基礎的な演奏の技能を身に付け、表現するために、どのような工夫が見られるか。

発行者	概 評
17 教育出版	(1) 基礎的な演奏の技能を身に付け、表現するために、学びのねらいを明確にしている。まず、音色と奏法との関わりを理解しながら、奏法を身に付けるための教材が提示されている。また、学びのポイントを踏まえ、「まよめの曲」に学習を進めることで、創意工夫を生かした表現ができるような工夫が見られる。特に和楽器を扱う教材では口唱歌を扱い、特徴を理解したうえで基礎的な奏法を身につけ表現するという工夫も見られる。
27 教育芸術社	(1) 基礎的な演奏の技能を身に付け、表現するために、さまざまな楽器の奏法、基礎的な技能を、写真で説明するなどの工夫が見られる。また、手順を追って取り組むことで技能の習得につながるような手立てがなされている。特にリコーダーでは、LESSON 1 から LESSON 4 と段階を追って技能を身に付け、表現する工夫が見られる。さらに、各楽器の奏者からのメッセージや、学習をサポートする資料等を掲載するなど、演奏への意欲を引き出す工夫も見られる。